

第16回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時：令和6年(2024年)12月1日(日) 10:00~16:30 (受付 9:15 より)
場所：米原市役所市民交流エリア(コンベンションホール)
主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会/滋賀県
共催：マザーレイクゴールズ推進委員会
後援：滋賀県河港・砂防協会

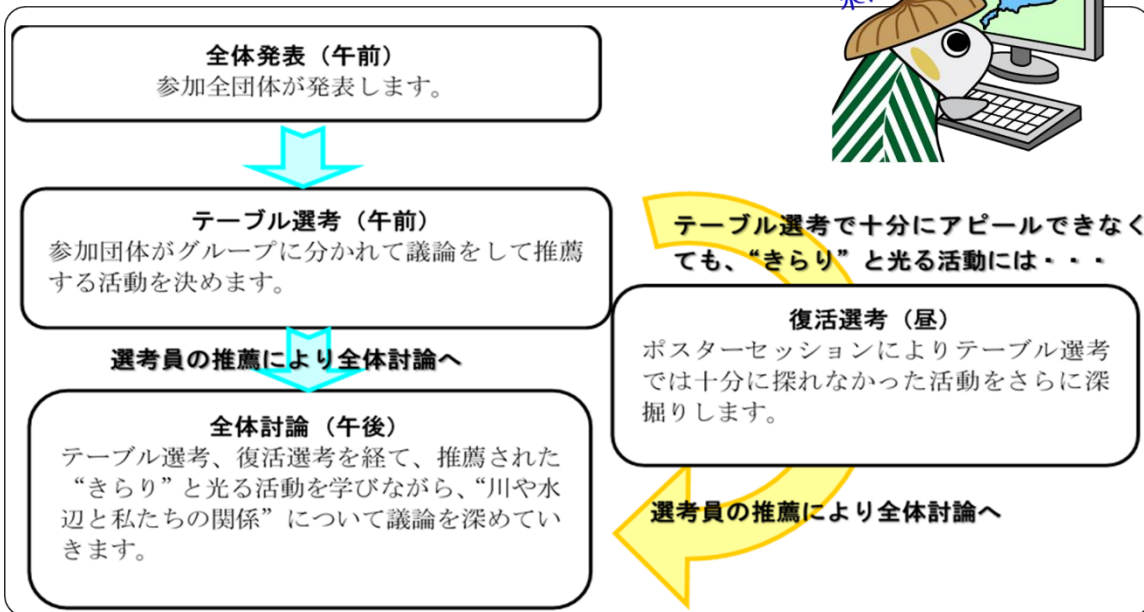
目次

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要	1
2. 大会プログラム	2
3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について	3
(1) 「公開選考会」の意味	3
(2) 公開選考会の進め方について	3
(3) 選考基準	4
(4) 復活選考(ポスターセッション)	5
(5) 表彰	6
4. 参加団体一覧・テーブル	7
5. テーブル別各団体活動位置図	8
6. テーブル選考 選考員プロフィール	10
テーブル A	10
テーブル B	11
テーブル C	12
7. 全体討論 選考員	13
8. 総合コーディネーター・グラフィックファシリテーター & 実行委員会	14
9. 現地会場 フロア全体図 (米原市役所)	17
10. 参加団体活動概要	18
A-1 川のおぢさん がわと	18
A-2 NPO 法人 国際ボランティア学生協会(IVUSA)	20
A-3 THE シガパーク推進会議	22
A-4 淡海を守る釣り人の会	24
A-5 日本潜水連盟	26
B-1 滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室	28
B-2 玉一アクアリウム	30
B-3 米川よろず会議	32
B-4 日野川流域まもり隊	34
C-1 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト	36
C-2 小さな自然再生ネットワーク	38
C-3 京都産業大学現代社会学部鈴木ゼミナール	40
C-4 Tabiwa Next	42

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川やびわ湖、水辺と共生する暮らし”、“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”を探るため、公開選考方式のワークショップを通じて、川やびわ湖、水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに議論を深めます。

- 日時：令和6年(2024年)12月1日(日) 10:00~16:30
- 会場：米原市役所市民交流エリア コンベンションホール
(滋賀県米原市米原 1016)
- 主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会/滋賀県
- 共催：マザーレイクゴールズ推進委員会
- 後援：滋賀県河港・砂防協会



淡海の川づくりフォーラムは、マザーレイクゴールズ推進委員会との共催事業です。



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から

淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県流域治水条例第34条に基づく県民相互の連携の支援事業です。



2. 大会プログラム

時間	内容
9:15	○受付
10:00 10:15	○開会、ガイダンス 開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。
10:15 11:15	○全体発表 参加全団体による活動発表(発表時間各3分)
11:15 11:20	各会場へ移動
11:20 12:20	○テーブル選考 1)3つのグループ(テーブル)に分かれます。 2)発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。(テーブルごとに2団体) 3)ここで推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。
12:20 12:25	全体会場へ移動
12:25 12:35	○テーブル選考結果報告・推薦団体発表 各テーブルから推薦された団体(計6団体)を発表します。
12:35 13:20	○お昼休憩
13:20 13:50	○復活選考(ポスターセッション) ・参加者全員で、応援したい!活動に「応援メッセージカード」を贈ります。
13:50	(パネル移動・着席)
13:50 14:00	○復活選考の結果発表 ・復活選考から全体討論に進むのは3団体です。



	○全体発表・全体討論（適宜休憩をはさみます）
14:00	1)3分以内で活動内容を発表、その後質疑応答。発表と質疑応答合わせて1団体で7分間。
16:00	2)総合コーディネーター・全体討論選考員を中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
16:00	○まとめとふりかえり
16:30	グラフィックファシリテーション、キーワードにより、今年の淡海の川づくりフォーラムの議論をふりかえります。
	○各賞の発表・表彰式
	1)「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰
	2)「マザーレイクゴールズ賞」、「山紫水明賞(河港・砂防協会賞)」の表彰
	3)「応援の花咲いた賞」の表彰

3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について

(1) 「公開選考会」の意味

- 淡海の川づくりフォーラムは、公開選考会という仕組みを使って、“川やびわ湖、水辺と共生する暮らし”、“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”について考えることが目的です…受賞団体の選考は、手段であって目的ではありません。
- お互いの発表を聞き、選考員や参加の皆さんそれぞれの視点を通して、活動の「よいとこさがし」をしてください。
- 18 ページから、今回参加の皆さまの活動概要を掲載しています。ページの下側に、「よいとこ探し キーワード メモ」の欄を設けています。ぜひ、「よいとこキーワード」をメモして、議論に参加してください。
- 質疑応答や討論時間を使って行われる「よいとこさがし」は、“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”について考えを深める時間です。

(2) 公開選考会の進め方について

- 選考会は、全体発表→テーブル選考→復活選考→全体討論(公開討論会)→表彰の順番で進めていきます。
- 全体発表は、参加団体が一堂に会して、日ごろの取り組みを発表します。全体発表は1団体3分とし、質疑は行いません。
- テーブル選考は3テーブル、1テーブル4または5団体に分かれ、全体発表で語りきれなかった部分の説明や質疑を通じて、それぞれの活動について理解を深めます。発表者とテーブル選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“イチ押し”の活動を選考します。(テーブル毎に2団体)

- 全体討論選考員、一般参加の方は、テーブル選考の時間は各テーブル間を自由に移動ができます。
- テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。復活選考では、選考員が会場内に掲示された各団体のパネルを見て回りますので、時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。復活選考から全体討論に進むのは3団体です。
- 全体選考に進んだ団体は、午後からの全体討論で再度発表をしていただきます。3分以内で活動内容を発表した後、質疑の時間を設けます。発表と質疑合わせて1団体7分間です。
- 総合コーディネーター・全体討論選考員を中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
- 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川やびわ湖、水辺と私たちの共生”、“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。
- 「グラフィックファシリテーション」「ホワイトボードレコーディング」により、「リアルタイム」で議論の「見える化」を行います。



(3) 選考基準

- 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川やびわ湖、水辺と私たちの共生”“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”を探ります。
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

1) 発想・着眼評価：“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価

例えば…

- ・この発想はなかった！
- ・やれるところからやりはじめてるのが、イイね！ など



2) 関わり評価:地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価

例えば…

- ・水辺が地域を元気にするね!
- ・継続は力だ! など

3) プロセス評価:市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価

例えば…

- ・え、そんな人たちも参加しているんだ!
- ・その連携は面白い! など

4) 計画・技術評価:“川やびわ湖、水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価

例えば…

- ・そんなことが出来るんだ!
- ・すこしの工夫でずいぶん違うね~! など



(4) 復活選考(ポスターセッション)

- 会場内に、各団体の活動を1枚にまとめたポスターを掲示したブースを設置します。参加団体はそれぞれのブースの前で参加者の皆さんに活動をPRしてください。
- 各団体の活動内容(ポスター)については、本プログラム P18~P43 でもご覧いただけます。
- 参加者全員に「応援メッセージカード」を2枚ずつお配りします。
- ポスターや各団体のPRを見て、応援したい!と思われた活動に「応援メッセージカード」を贈りましょう!
- 「応援メッセージカード」には一言でもメッセージを書いてください。団体の活動の励みになります。



(団体名)	さんへ
<応援メッセージ(ひとことでも!)>	

(5) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【マザーレイクゴールズ賞】

- 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイクゴールズ(MLGs)の目指す、2030年の持続可能社会の実現に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【山紫水明賞(河港・砂防協会賞)】

- 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの(事業)推進に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【応援の花咲いた賞】

- 上記の選考基準とは別に、会場内に掲載した各団体の活動内容に対して、参加者からのメッセージが一番多かった団体を表彰します。
- 全ての参加団体が受賞の候補となります。
- 他の賞と重複して受賞する可能性もあります。

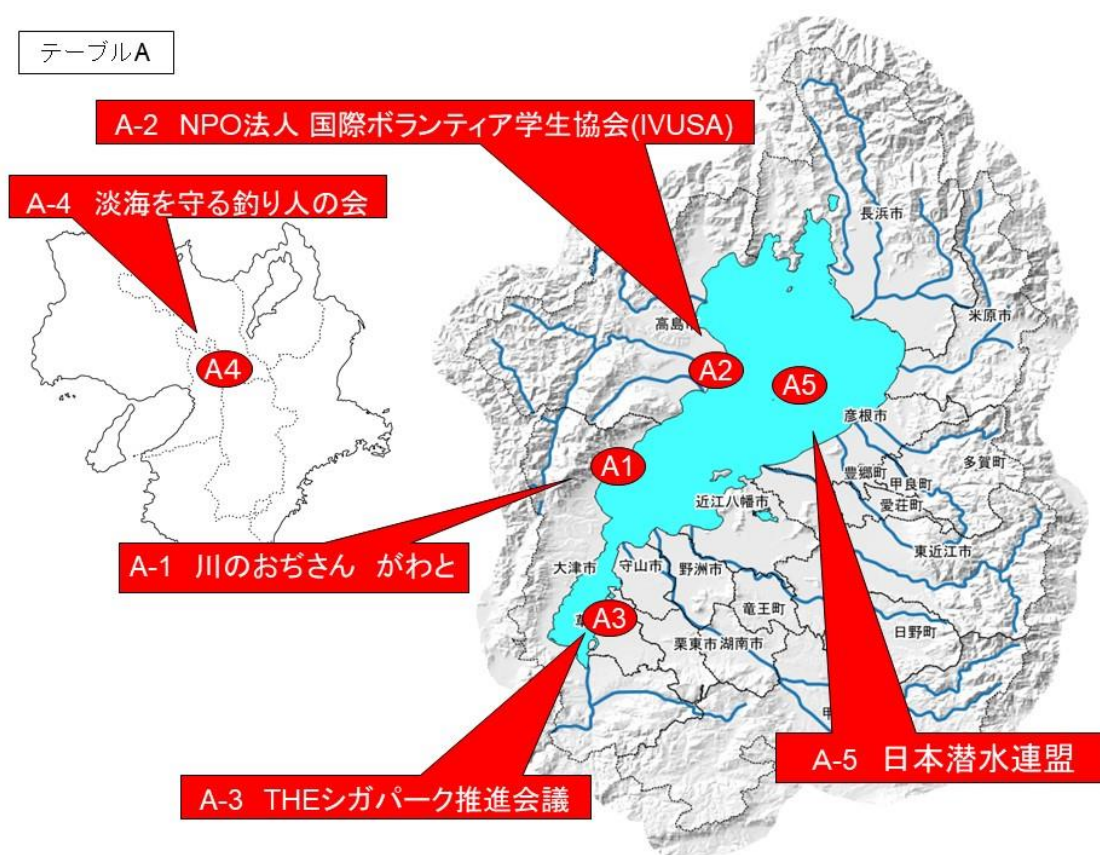
4. 参加団体一覧・テーブル

●全体発表はA-1から順番に行います。

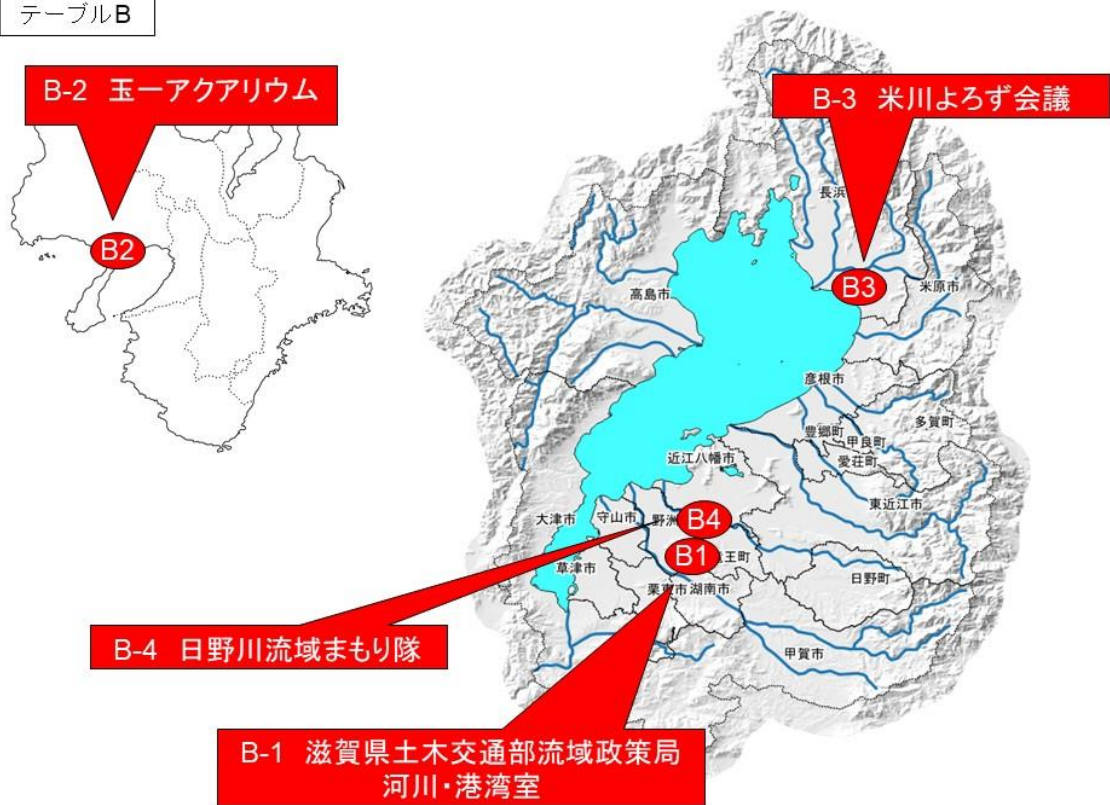
テーブル	グループ名	湖沼・河川・活動地域等	活動内容	
テーブルA	A-1	川のおちさん が わと	びわ湖 大津市 近江舞子 ～比良付近	びわ湖で世界中の子ども達を洗う
	A-2	NPO 法人 国際 ボランティア学生 協会(IVUSA)	琵琶湖（守山市、高島 市）、鴨川	外来水草オオバナミズキンバイの除去活動と 広報活動
	A-3	THE シガパーク 推進会議	湖岸緑地南湖東岸エリア 草津市志那町付近 ほか	琵琶湖岸公園の魅力アップ・発信と管理
	A-4	淡海を守る釣り人 の会	宇治川 伏見区【淀川水 系】 京都府伏見区宇治川 大橋から第二京阪道路高 架下まで	清掃活動
	A-5	日本潜水連盟	琵琶湖	琵琶湖湖底清掃、湖底状況の発表、湖底ゴミ データ採集
テーブルB	B-1	滋賀県土木交通部 流域政策局河川・ 港湾室	家棟川 野洲市小堤 滋賀 県希望が丘文化公園内	川の環境教育、体験の機会の場提供
	B-2	玉ーアクアリウム	二級河川 明石川水系 下流～河口(神戸市～明 石市)	明石川水系の生物多様性保全活動
	B-3	米川よろず会議	一級河川米川(淀川水系) 滋賀県長浜市	米川に関する情報の集約や米川のある長浜 の将来イメージの共有、研修会の開催などを 主に行っています。
	B-4	日野川流域まもり 隊	日野川 近江八幡市篠原町周辺桐 原新橋付近	ごみ拾いを通して日野川とその周辺の状況 を監視
テーブルC	C-1	家棟川・童子川・中 ノ池川にビワマス を戻すプロジェク ト	一級河川中ノ池川 野洲 市富波甲、富波乙ほか 野洲市総合体育館付近	河川の環境保全活動

C-2	小さな自然再生ネットワーク	中の井川 栗東市縹町 JR 栗東駅付近	川をあるき、川を観察し、ホタルの生息域を拡大しています。
C-3	京都産業大学現代社会学部鈴木ゼミナール	一級河川鴨川・鴨川デルタ	アンケート調査、データ解析、鴨川デルタ水の聖地を巡るガイドウォーク開催
C-4	Tabiwa Next	びわ湖、瀬田川	若い県民や県外に向けたビワイチの推進、情報収集と発信、研究活動
計		13 団体	

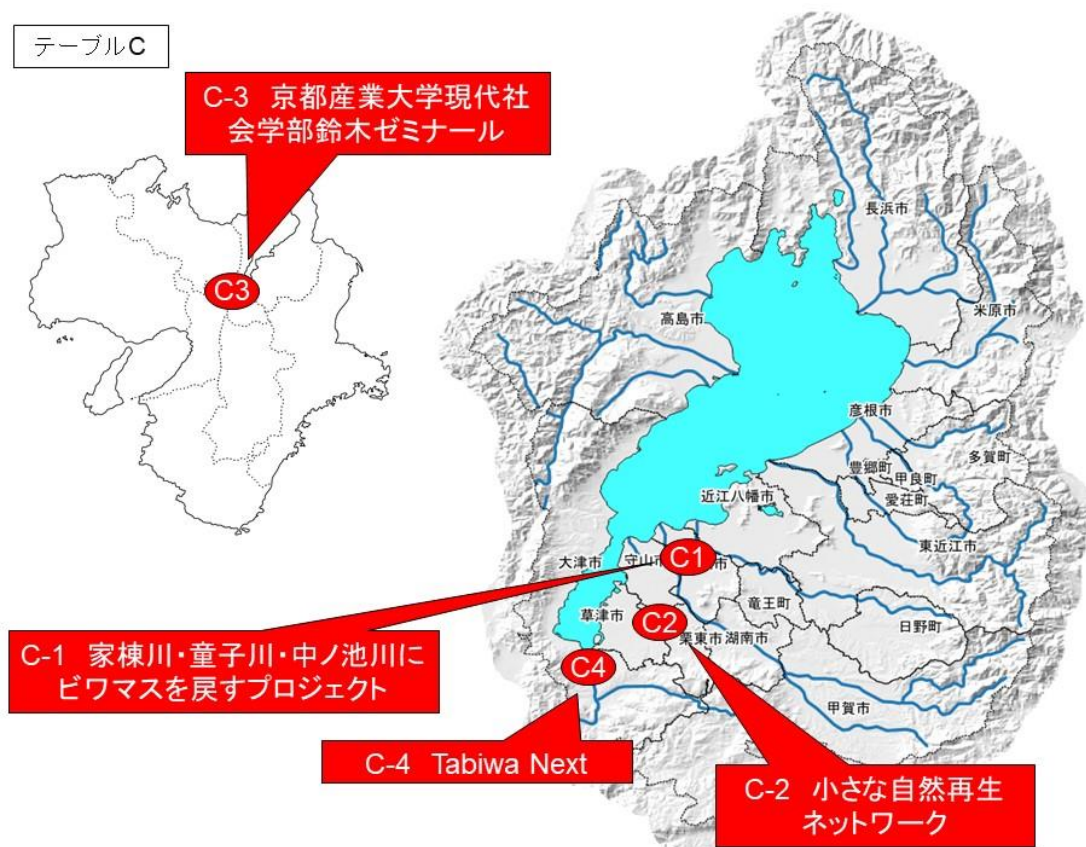
5. テーブル別各団体活動位置図



テーブルB



テーブルC



6. テーブル選考 選考員プロフィール

テーブル A

(テーブル・コーディネーター 兼 選考員)



上田 隼也 (うへだ じゅんや) / 一般社団法人インパクトラボ 代表理事

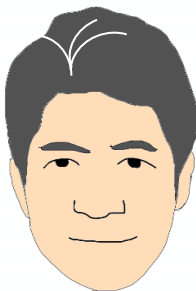
熊本県益城町出身。草津市在住。立命館大学在学中よりSDGs に関心を持ち、一般社団法人インパクトラボを設立。滋賀県で策定されたMLGs 等にも深く関わっている。社会課題をビジネスを通じて解決する社会起業家の育成に力を入れている。

(選考員)



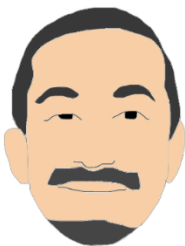
熊木 香 (くまき かおり) / 特定非営利活動法人里山保全活動団体 遊林会 河辺いきものの森

京都府舞鶴市出身。山に囲まれた環境で育ち、毎日、身近な自然の中で遊びながら幼少時代を過ごした。高校卒業後は植物の生産を学ぶため大阪の園芸専門学校に進学。その後、滋賀県のナーセリー型の樹木の生産者に7年間勤務。どうしてこの道を選んだのか深く考えた時期があり幼少期の自然体験が原点にあることに気付く。それ以降、子どもたちと自然に関わる仕事につきたい夢を持ちながら10年の時が経つ。人のご縁により、2016年から東近江市の環境学習施設「河辺いきものの森」に事業所をおくNPO法人 里山保全活動団体 遊林会の職員として勤務。現在は里山保全活動に取り組みながら、その森を活用し年間を通じて子どもたちに自然と関わる楽しさ、面白さを伝える仕事をしている。



岡田 健一 (おかだ けんいち) / 流域政策局 副局長

滋賀県守山市生まれ。幼小の頃、近所を流れる野洲川の河原で、水につかたり、石を投げたりするなど、ゆるい「川遊び」を楽しんでいました。また、小学校の授業の中で、2本の野洲川(南流・北流)を1本の放水路にまとめる工事を現地見学し、景色が一変するダイナミックな工事に衝撃を受けました。これらの体験が、川の整備や計画づくりなど、現在担っている「川の仕事」につながっています。



竹村 光雄 (たけむら みつお) / 長浜まちづくり株式会社

都市計画家 / 1982年生。茨城県日立市出身。湖北長浜の濃密なローカルリティに魅了され、それらを探究し、創造の源泉として活動する。伝統的町家・路地・水路など都市空間の再生と、それら空間を舞台とした企画やプロジェクトのマネジメントを手掛ける。

テーブル B

(テーブル・コーディネーター 兼 選考員)

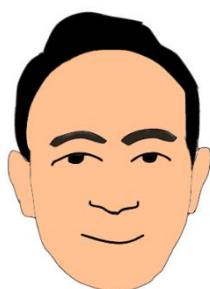


(選考員)

武田 みゆき (たけだ みゆき) / 守山市環境政策課 淡海を守る釣り人の会

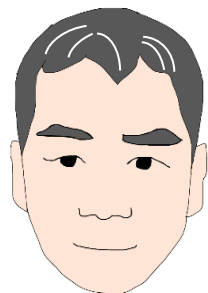
草津市生まれ。旧草津川と琵琶湖の側で育ち、現在は守山市環境政策課の職員として環境学習を担当しながら、淡海を守る釣り人の会の副代表として琵琶湖の清掃活動や小さな自然再生を主催しています。淡海を守る釣り人の会の淡海は、淡海の川づくりフォーラムからいただきました。憧れのにーやんたちの背中を見て日々勉強中です。

宮尾 陽介 (みやお ようすけ) / NPO法人まるよし 理事長



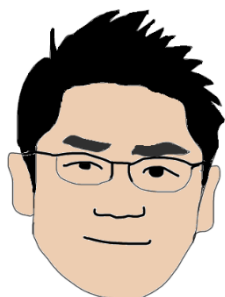
滋賀県近江八幡市にある西の湖のほとりで生まれ育つ。公務員として環境政策を担当していた頃、ヨシの魅力や大切さを再認識し、「ヨシの活用によるヨシ原の保全」を座右の銘としてヨシに関わる活動に着手。2024年4月4日(ヨシの日)にまるよしを設立し、ヨシ原の保全にとどまらず、放置竹林の整備やカヤック教室の開催など、幅広い事業を展開。2023年10月にMLGs案内人に就任してからは、ヨシとMLGsについての講演を各方面(ロータリークラブ、大学の講義、環境啓発イベントなど)で開催。地元の小中学生からは「ヨシ博士」と呼ばれている。

森川 学 (もりかわ まなぶ) / 湖北農業農村振興事務所 田園振興課 農地農村保全係 主幹兼係長



滋賀県長浜市に在住の滋賀県職員です。農業土木系職員として、平成10年4月から公務員生活を始めました。その範囲は、かんがい排水や区画整理、農業水利施設の管理等、農業土木全般にわたります。その間、JICAの専門家養成プログラムにてインドネシアでの派遣経験があり、また湖北環境事務所にて3年間の勤務経験も持っています。その活動により、水利関連の知識だけでなく、歴史、文化史、生活史などから見た農業土木の全体像について理解を深めてきました。滋賀県の川づくりについて、みなさんの意見を楽しみにしております。

寺村 淳 (てらむら じゅん) / 大正大学招聘教授



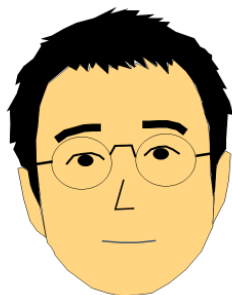
愛知県生まれ、彦根育ち。物心つく前から祖父の魚とりに同行し、鮒ずしが好物だった。小学校の自由研究でずっと近所の川の生き物しらべをしていた。

大学生の時、伝統的な河川技術である霞堤と出会い、歴史も治水も環境も全部川でつながっていることに気づく。また、学生時代に新潟の水辺のまちづくりをするNPOのスタッフをし、いろいろな世代が自由に楽しめる水辺に魅力を感じている。

テーブルC

(テーブル・コーディネーター 兼 選考員)

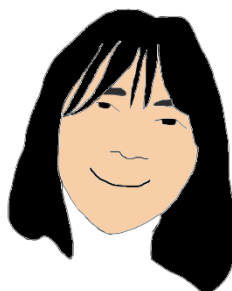
**八木 宏晃 (やぎ ひろあき) / 静岡県 危機管理部 危機対策課 対策
班長・しぞ〜か防災かるた委員会 副会長**



(選考員)

静岡県清水区生まれ。小学生の頃は清水港で毎日のように魚釣りをして遊んでいた。小学校・中学校の通学路には巴川の脇を通り通学していた。平成8年に静岡県の土木技師として採用され、静岡県の土木防災・危機管理行政に永く従事してきた。プライベートでは、しぞ〜か防災かるた委員会に所属し、「静岡の良さ」と「防災の心得」を学べる「しぞ〜か防災かるた」を通じて防災意識の啓発に努めている。また、静岡県版のいい川・いい川づくりワークショップである「しずおか川自慢大賞」の事務局運営にも携わっており、滋賀県さんとも交流をさせていただいております。

**泉野 珠穂 (いずみの たまほ) / 株式会社ウエスコ 防災・環境部 環境
計画課**



滋賀県近江八幡市出身。心落ち着く自然とそこに暮らす生き物たちが愛おしくてたまらない20代女子です。滋賀県立大学で瀧先生に出会い、河川に棲む植物や魚の研究をしながら小さな自然再生活動などに尽力。精神的・物理的に川に入り浸る学生生活を送りました。今年の夏には制作に携わった『はじめての魚の居場所づくり』が発行されました。

現在は社会人1年目。岡山県の会社で生物調査の仕事に多く関わっています。たも網から投網、捕虫網にも持ち替えながら日々勉強中。大学時代とやっけることは変わらないような…。今日は恋しい滋賀県と琵琶湖のパワーをもらいに帰ってきました。

中井 健太 (なかい けんた) / 合同会社 andstep・itteki リーダー



大阪府茨木市出身。2000年24歳。
大学卒業後に大阪から滋賀県長浜市に移住し合同会社 andstep を設立。「オモシロイ教育でオモシロイ地方にする」をビジョンに教育×まちづくりの事業を展開。
2023年からは長浜市駅前の高校生・大学生向けのサードプレイス「itteki」をリーダーとして運営。若者とまちづくりをソフトとハード面から行う。

**曾我部 共生（そがべ ともき）／滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課
MLGs 推進委員会事務局**



島根県隠岐の島出身。島民 500 人の島で漁師の息子として育ったが、島には淡水魚がほとんどおらず、淡水魚にあこがれて大学進学で日本最大の湖である琵琶湖を目指した。大学時代は県内各地の水辺で様々な生き物に触れる中で、琵琶湖の魅力にとりつかれ、そのまま滋賀県に入庁。

職場では琵琶湖版 SDGs である MLGs の推進のほか、国際連携(湖沼環境)を担当。今年5月にはインドネシアで開催された世界最大の水に関する国際会議である第 10 回世界水フォーラムで MLGs の発信に取り組んだ。

プライベートでは、令和元年に立ち上げた淡海生物研究会の副代表を務め、滋賀県の水生生物の情報を誰でも投稿できる研究会誌を発刊し、その記録を後世につなぐことを目指している。

7. 全体討論 選考員

若公 崇敏（わこう たかとし）／国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所 事務所長



東京都江戸川区生まれ新潟育ち。関西での 6 年間の学生生活を経て 2001 年に国土交通省入省。以後、河川(豊川・矢作川・北上川)や下水道など水に関わる事業に携わりつつ、海外留学(アメリカ)・勤務(ベトナム)も経験。2023 年 7 月に現職に着任。瀬田川沿いの朝晩の自転車通勤が至福の時間。「川を知るには川の中から」との思いから、昨夏は担当する瀬田川・野洲川の管理区間を泳いで(流れて?)みたが、流石にしんどいので今年の夏はカヤック、SUP にて滋賀県内の川くだりを堪能。

吉岡 美佐子（よしおか みさこ）／草津湖岸コハクチョウを愛する会 理事長



滋賀県東近江市生まれ、幼いころ川や山が遊び場。夏には蛍が飛び交い冬にはシカやキジが現れる自然豊かなふるさとでした。主人の海外赴任に同行、帰国後草津琵琶湖岸でコハクチョウに出会い一目ぼれ、仲間と環境ボランティアを設立 23 年、冬の 3 ヶ月は毎日大好きな琵琶湖や山々を眺めながら水鳥観察指導や環境保全活動をしています。



深川 光耀（ふかがわ こうよう）／花園大学 准教授

1980年佐賀市生まれ。京都市在住。阪神・淡路大震災で被害を受けた、神戸市真野地区の「住民主体のまちづくり」に学ぶ。

民間まちづくりコンサルタント、京都市まちづくりアドバイザーを経て、現職。京都・滋賀と地元佐賀の2地域を拠点としてまちづくりに取り組んでいる。

小さい頃、佐賀平野のクリークに棲む魚たちに取り憑かれる。

最近、佐賀市内のクリークをいかした(川を表にした)まちづくりについて妄想中。



**北村 美香（きたむら みか）／治水利水から学ぶ・楽しむ実行委員会/
結 creation**

京都市生まれ。学生時代の遊び場だった琵琶湖のことをもっと知りたいと思い、研究の場に琵琶湖博物館を選ぶ。川や生き物に夢中になっている人たちを観察しているときや、地域の大先輩たちに体験談を聞かせていただいているときが一番楽しい時間。

学芸員としての経験を活かし、人と地域と博物館、暮らしと自然をつなげるお手伝いをしている。

8. 総合コーディネーター・グラフィックファシリテーター & 実行委員会

(総合コーディネーター)



青田 朋恵（あおた ともえ）／滋賀県立陶芸の森 副館長・琵琶湖システム広報大使

京都市生まれ。

ここ滋賀(首都圏発信拠点)所長として勤務ののち、2022年度末に滋賀県職員を退職。現在は、甲賀市信楽にある滋賀県立陶芸の森で副館長として勤務。

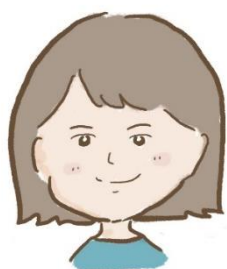
世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」の発信に広報大使として取り組んでおり、湖魚の生育を育む「魚のゆりかご水田」をはじめとする農山村地域の活性化などにも携わっています。モットーは「食べることで琵琶湖を守る！」

滋賀の伝統食であるフナズシをはじめ、ピワマスなどにも目がなく、美味しいものの噂を聞けば、県内各地、何処にでも出没します！

大好物の琵琶湖の恵みや近江米などの「食」と、それらに関わる地域の方々との出会いを生涯大切にしていきたいと思っています。

(グラフィックファシリテーター)

永阪 佳世 (ながさか かよ)



滋賀県出身。社会福祉士として児童福祉や教育分野の仕事に携わる。また、多様な人が集まる場で立場に関わらず、納得感をお互いに作り合えるような場を作りたい思いから、話の見える化(グラフィックレコーディング、グラフィックファシリテーション)での対話の場づくりを実践中。

まちの未来を考える住民対話や、大学生の学びの場などをサポート。

安田 希亜良 (やすだ きあら) / 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 環境計画学専攻 修士2年生



授業で受講したグラフィックレコーディングに惹かれて、あるがゆう氏に弟子入り。様々なまちづくりの場などで経験を積み重ね中。大学では流域治水について学ぶ。研究のテーマは、「北海道石狩川における自然再生×流域治水の両立」。長浜市のまちなかを流れる米川での川まちづくりでも活動。

清水 麻依 (しみず まい) / 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 環境計画学専攻 修士2年生



学部生時代にあるがゆう氏の講義を受け、グラフィックレコーディングに興味をもち、弟子入り。

現在、ワークショップやイベントにて経験を重ね中。

大学では流域政策・計画学研究室に所属し、流域治水を学ぶ。

フィリピンで最も大きい湖であるラグナ湖流域における水災害リスク評価をテーマに研究中。

(ホワイトボードファシリテーター)

辻 光浩 (つじ みつひろ) / 滋賀県土木交通部流域政策局局長・「奥村堤」の会 広報部長

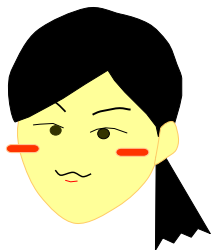


滋賀県東近江市、愛知川沿い在住。滋賀県職員。

子どもの頃から愛知川をフィールドに活動。地域住民で構成する『「奥村堤」の会』広報副部長。年5回、愛知川堤防の清掃・点検を実施し、川の中から川の外を見て気付いたことを発信しています。滋賀県庁入庁後は、主に河川や琵琶湖に関する計画策定に従事。土木技術系職員。

(実行委員会)

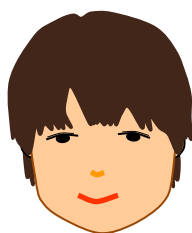
委員長



**北井 香(きたい かおり) / NPO 法人まちづくりスポット大津
コーディネーター**

県内の農山村を中心にいくつかの活動にスタッフなどの立場で関わっています。地域の良さを前向きに活かして、活動・発信・取組みを応援したい。現職は滋賀県立大学 特定プロジェクト研究員。2009年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

委員長代理



瀧 健太郎(たき けんたろう) / 滋賀県立大学 教授

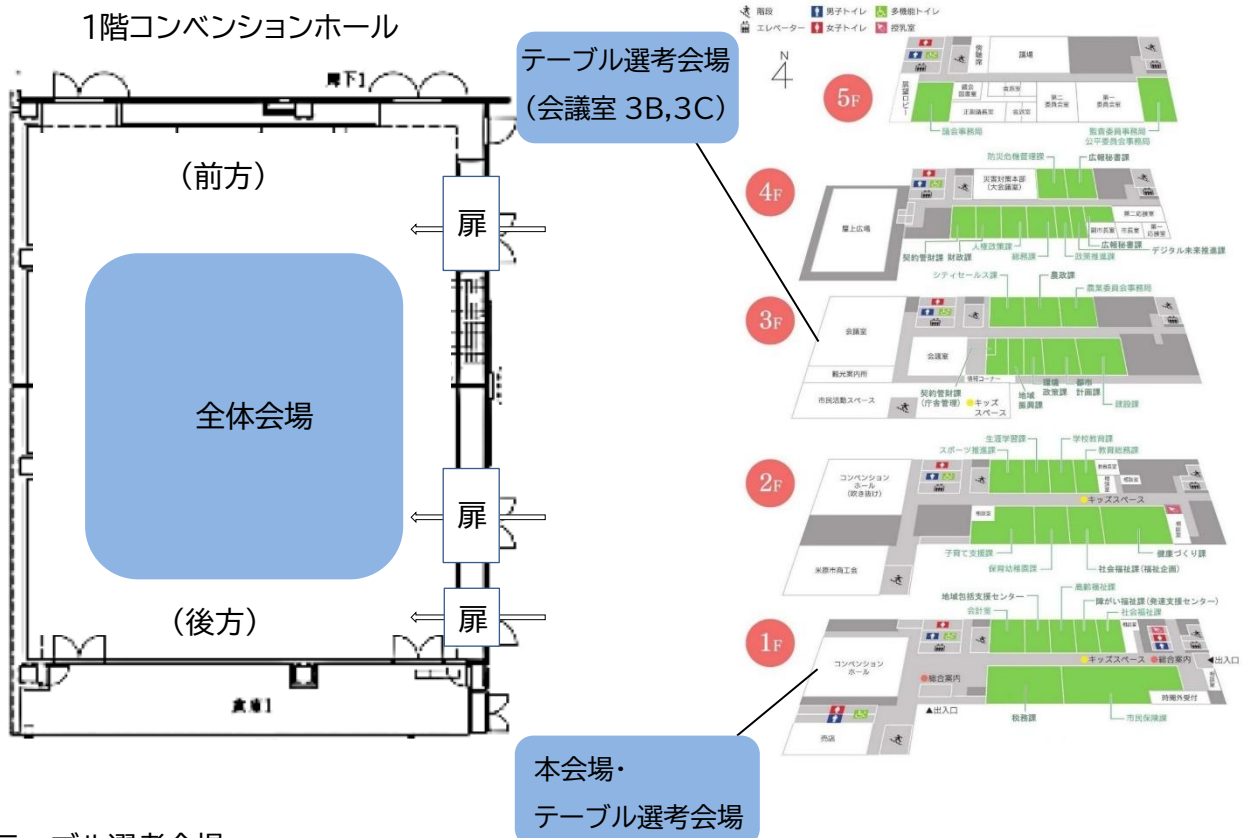
川の日(7月7日)生まれ。大学院修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務(18年間)ののち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当した(淡海の川づくりフォーラム第1回～第6回まで事務局)。数多くの川や人との様々な出会いを通じ、川の魅力に取りつかれている。また、どんな川であっても、地域に愛される川こそが“いい川”だと信じている。

実行委員会(流域治水検討委員会(住民会議))

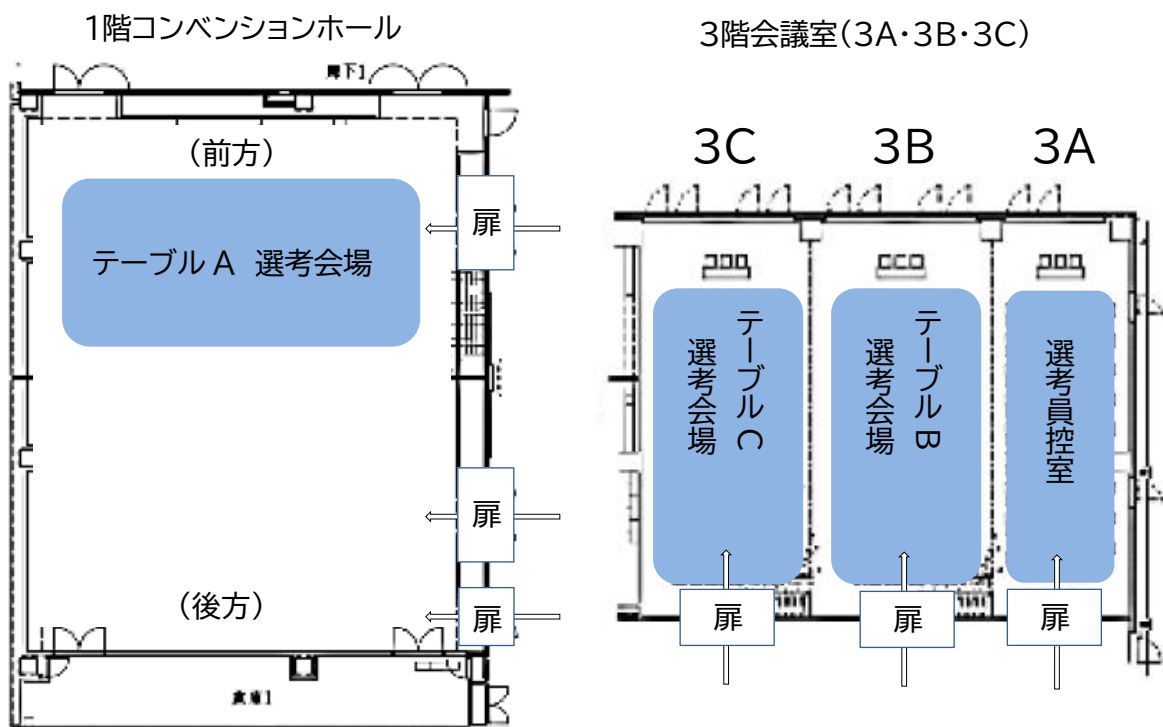
滋賀県の流域治水基本方針の策定に向けた「水害から命を守る地域づくり県民宣言」を提言した、流域治水検討委員会(住民会議)の中から、「住民が次の年も活動するのに元気が出るような場をつくろう」との議論があり2009年に発足。

9. 現地会場 フロア全体図 (米原市役所 市民交流エリア)

○全体会 会場(開閉会、全体発表、全体討論時等)



○テーブル選考会場



10. 参加団体活動概要

A-1 川のおぢさん がわと

活動のキーワード

- ① びわ湖と川好き人 ② 子ども ③ 思いきり遊ぶ

発表内容

この活動は趣味の SUP をしていた時に声をかけてきた子ども達と一緒に遊んだことがきっかけで、これまで 200 人ほどの子ども達をびわ湖で洗いました。上手く SUP に乗れたという成功体験は、子ども達のチャレンジ精神と何でもできるという自信を育てています。今夏は、仲良し川仲間力を借りて、流域の上下流から集まった親子とヤングケアラーの中高生達を洗いました。洗った子ども達は、びわ湖を大好きになり、びわ湖に纏わる様々な課題に興味を持ってくれました。大人になったら、びわ湖のために動き、次の世代へ「びわ湖愛」を繋いでくれたら、ええなあ〜と思っています。やることは「びわ湖で思いきり遊ぶだけ」ですが、遊びの中に学びがイッパイ！です。

活動中の川や水辺の名称

びわ湖 大津市 近江舞子～比良付近

活動内容

びわ湖で世界中の子ども達を洗う

よいとこ探しキーワード メモ！



びわ湖で世界中の子ども達を洗う



やることは
「びわ湖で思いきり遊ぶだけ」



でも
「遊びの中に学びがイッパイ」



@GAWATO_SUP



Biwacompass

A-2 NPO 法人 国際ボランティア学生協会(IVUSA)

活動のキーワード

- ① 大学生 ② 特定外来生物オオバナミズキンバイ
- ③ 多様な主体との協働(行政、陸上自衛隊、地域 NPO、漁師、企業、住民など)

発表内容

琵琶湖では外来水草オオバナミズキンバイが大繁茂しており、魚の産卵場所が減るなど生態系に悪影響を与えています。

2013 年よりオオバナ除去活動に取り組み、これまで計 100 回、延べ 1 万 4600 人で約 4 万㎡、約 600t のオオバナを除去してきました。

今年 9 月には、3日間、約 60 名の大学生が高島市のヨシ植栽地に集まり、滋賀県庁や陸上自衛隊の方々と合わせて計 113 名でオオバナ除去活動を行い、約 3,000 ㎡のオオバナを除去しました。新たに取り入れた除去方式である「淀川方式」を用い、効率的な除去が可能となりました。

今回、オオバナ撲滅に向けての新たな手法、多様な主体との協働での取組みについて発表します。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖（守山市、高島市）、鴨川

活動内容

外来水草オオバナミズキンバイの除去活動と広報活動

よいとこ探しキーワード メモ！





バナキンくん

オオバナミズキンバイ除去大作戦



～琵琶湖での環境保全活動を世界に発信！～

NPO法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

1. 背景

オオバナミズキンバイという**特定外来生物**は琵琶湖において、2009年頃滋賀県守山市で初めて確認されました。そこから南湖を中心に**驚異的な繁殖力**で生息域を増やし、2016年には約30万㎡にまで増加し、漁業や水質、水産資源、琵琶湖特有の生態系に悪影響を及ぼしています。

本協会では、「**大学生の力で琵琶湖を守りたい**」という想いから2013年より先駆的に除去活動を開始し、これまで多様な主体（行政、漁師、NPO、地域住民など）と連携しながらこれまで**計100回**、延べ**1万4600人**で約**4万㎡**、約**600t**のオオバナを除去してきました。

近年では、琵琶湖湖岸のヨシ植栽地中心にオオバナが繁茂しており、マンパワーによるオオバナ除去が求められています。

2. 目的

大学生の**若さ**と**元気**を生かして、多様な主体と連携ながら琵琶湖からオオバナミズキンバイなどの外来水草を根絶し、多様な自然環境の**保全・再生**を目指す。

3. 活動内容・成果

<琵琶湖外来水生植物除去大作戦2024>

日程：2024年9月13～15日

場所：滋賀県高島市 琵琶湖湖岸ヨシ植栽地

内容：オオバナミズキンバイの除去活動

人数：113名(IVUSA 67名、関係者 46名)

参加：陸上自衛隊、三菱電機株式会社

後援：滋賀県庁

成果：除去面積3,000㎡



BEFORE



AFTER



一人では無理でも
みんなで力を合わ
せれば大丈夫！



4. 今後の展望

オオバナは琵琶湖だけでなく、京都や大阪にも拡散しています。IVUSAは**関西全体**での**認知度向上**、**早期発見**、**早期除去**に向けた活動を展開していきます。また**大阪・関西万博**や**第20回世界湖沼会議**、**世界湖沼デー**制定に向けた動きを通してこの活動を世界にも発信し、問題の解決に取り組みます。



グローバルユースと考える Sustainable Lake Management Week
ユースネットワークの発展と持続可能な湖沼管理推進のため



琵琶湖・淀川流域シンポジウム



本活動、ポスターはびわ湖チャリティー100km歩行大会からの寄付金を活用させていただいております。

A-3 THE シガパーク推進会議

活動のキーワード

① 琵琶湖岸の公園 ② 公園の魅力向上 ③ マナー改善の取組

発表内容

滋賀県では、琵琶湖を中心とした滋賀県全体が一つの美しい公園であるかのような、「水と緑と人につながる“THE シガパーク”」を目指し、公園の魅力アップと情報発信を始めました。

県庁内に、土木交通部都市計画課公園魅力向上推進室が事務局となり、県の公園を管理する組織を束ねて“THE シガパーク推進会議”を発足し、部局を超えてその取組にあたっています。

今回は、琵琶湖の魅力、湖岸の様々な公園を訪れていただくことで、再発見していただくことをご紹介しますと思います。

さらに、昨年発表した南湖東岸の公園での、利用者のマナー改善の取組のその後についても報告します。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖岸 の県営公園 草津市志那町ほか

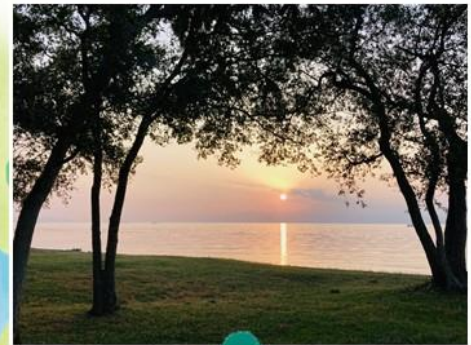
活動内容

琵琶湖岸公園の魅力アップ・発信と管理

よいところ探しキーワード メモ！



滋賀県はでっかい公園だ！



THEシガパーク

びわ湖を中心とした滋賀県全体が一つの美しい公園であるかのような
“THEシガパーク”
 として
 公園を管理する県庁組織を束ねて
 魅力アップと情報発信を始めました



湖岸緑地・園地等



「マナー改善」に向けても
 日々取り組んでいます。
 【湖岸緑地志那エリア社会実験】



R5年 5月



R5年 11月



R6年 5月



R6年 10月

THEシガパーク推進会議
 〈事務局：滋賀県公園魅力向上推進室〉

【湖岸緑地南湖東岸エリア管理者】
 滋賀県公園魅力向上推進室
 南湖東岸ゆうゆうパートナーズ

A-4 淡海を守る釣り人の会

活動のキーワード

- ① 学生 ② 宇治川 ③ 釣り人

発表内容

私たちは日々水辺で釣りをさせて頂いている、釣り人です。そこで私たちはよく水辺に放棄されているごみの量に日々危機感を抱いています。最近では、水辺に落ちているごみの量が年々増えてきている影響もあり、全国各地で釣り場への立ち入り禁止等の規制を余儀なくされる事が多々あります。私は総合学園ヒューマンアカデミー大阪心斎橋校フィッシングカレッジという、日本で唯一釣りを勉強する専門学校に通っている生徒であり、淡釣会の一員です。釣りという水辺遊びを後世に引き継げるようどうすべきか、今の自分たちに何が出来るか、釣りを学んでいる学生だからこそ今できることを、私なりに考え行動してきましたのでせっかくだいたこの機会に学生自ら全力でアピールしたいと思います。

活動中の川や水辺の名称

宇治川 伏見区【淀川水系】 京都府伏見区宇治川大橋から第二京阪道路高架下まで

活動内容

清掃活動

よいところ探しキーワード メモ！



水辺好きの輪を広げる！

Breathe by the water!



宇治川清掃



今年からはじめた宇治川清掃は、釣り人が主体となって開催しています。琵琶湖・淀川水系・宇治川の豊かな環境を守るため、水辺のゴミを拾い、河川環境の保全や観光地としての魅力向上を目指します。

19歳の学生が主催し現在2回開催しました。学生から大人まで少人数ですがこれからも水辺の環境保全の意識向上を図り、川を好きな人を増やせるよう継続して活動していきたいと思っています！



A-5 日本潜水連盟

活動のキーワード

- ① 湖底清掃だけじゃない ② 琵琶湖の産業にも ③ 居場所づくりにも

発表内容

琵琶湖の湖底を、ダイバーと陸隊が協力して清掃しています
という、清掃団体と思われてしまいますが、清掃だけではないのです
漁業の助っ人、不登校児の居場所づくり、イベントの準備、落とし物捜索、釣り人との活動等
琵琶湖での困り事を解決するべく、多様な活動をしています
ダイバーは水に関わる、あらゆる事が可能です
今後も活用ください(^^)

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖

活動内容

琵琶湖湖底清掃、湖底状況の発表、湖底ゴミデータ採集

よいとこ探しキーワード メモ！





地元の団体とコラボ



定期的に陸上の清掃をしている団体さんは県内にはたくさんありますしかし、ゴミが見えていても、届かない湖底もどかしい思いを解消しています

漁業とコラボ



ダイバーはつかいよう漁業での困ったのお手伝いもできます

落とし物探し



大切な物を落としてしまったでも、水中は取りに行けませんダイビング技能を生かして、探しに行きます

日本潜水連盟と琵琶湖

湖底清掃をするボランティア団体ですが、単純な清掃だけじゃないんです

スポーツとコラボ



トライアスロン大会で、選手の皆さんの泳ぐコース上のゴミと、水草の除去作業をおこないました湖底が生きている場所では、機械による草刈は、ダメージがでまいます

福祉団体とコラボ



清掃活動は宝探しみたいと、興味を持つ子供がいます学校へは行けなくても、清掃活動は楽しくやれたりしますダイバーと一緒に活動することで、印象が強くなります

湖底調査



湖底状況を撮影したり、湖底ゴミの重量を図って記録し、県機関へ報告しています県の施策の参考になっています

活動のキーワード

① みずべのこ ② 「はじめての魚の居場所づくり」 ③ 滋賀けんせつみらいフェスタ2024

発表内容

令和6年10月に開催された「滋賀けんせつみらいフェスタ2024」の出展ブースの一つとして会場内を流れる家棟川において、主に子供たちを対象に「魚捕り・バーブエづくり体験」を行いました。

滋賀県が新たに今年度から推進していく「みずべのこ」の活動の一環として実施したもので、子どもたちに川の環境や仕組みを知ってもらうことを目的としていました。

実施の結果、100名近くの参加者があり、子供たちは目をキラキラ☆と輝かせて、網を振り回し、魚や水生昆虫などの採取に本当に楽しそうに夢中になっていました。また、バーブエづくり体験では、滋賀県立大学、瀧研究室が中心となって製作した「はじめての魚の居場所づくり」の冊子をテキストにし、瀧教授の解説により、親子で川の仕組みを学んでもらうことができました。

川の魅力を最大限発信でき、また、建設業という面から見ても川づくりに関する次世代の人材を育てることにつながる大事な取組だったと考えています。

活動中の川や水辺の名称

家棟川 野洲市小堤 滋賀県希望が丘文化公園内

活動内容

川の環境教育、体験の機会場の提供

よいところ探しキーワード メモ！



みずべのこ

はじめての魚の居場所づくり vol.2

滋賀県流域政策局 流域政策・計画学研究室
 滋賀県立大学大学院 流域政策・計画学研究室
 リバーステップ研究センター

【目的】
 子どもたちに川の環境や魅力を知ってもらおう。



国交省・文科省・環境省が連携して実施している
 「水辺の楽校」事業をモデルに、出前講座を実施



小わざ魚道



バールエ

河川工事でも実施



はじめての魚の居場所づくり vol.2
 2024年8月

【制作】
 滋賀県立大学大学院 泉野珠穂・安田祐亜良・滝野太郎
 日本河川・流域再生ネットワーク

【協力】
 滋賀県流域政策局
 滋賀県立大学大学院 流域政策・計画学研究室(協研)
 公益財団法人リバーステップ研究所

滋賀けんせつみらいフェスタ2024で
 「魚捕り・バールエづくり体験」を実施

B-2 玉一アクアリウム

活動のキーワード

- ① 明石川と共に生きる ② 生物多様性保全活動 ③ 季節来遊生物

発表内容

私たち玉一アクアリウムは、1年を通して週に1～2回明石川水系の生物多様性保全活動としてモニタリング調査と外来種の駆除、在来種の保護活動をしています。

近年の明石川下流～河口調査では、季節来遊生物(死滅回遊生物)が多く捕れるようになり、中には死滅せずに明石川下流で越冬し、成長する種も現れました。

外来生物は在来生物にとって脅威ですが、人間による地球温暖化や海水温上昇などによって明石川季節来遊生物が定着したら、同じように脅威になるはずです。

生態系だけでなく漁業も心配で、調査でわかってきたことを伝えながら、環境の変化をいち早く知るために調査を続けています。

活動中の川や水辺の名称

二級河川 明石川水系 下流～河口(神戸市～明石市)

活動内容

明石川水系の生物多様性保全活動

よいところ探しキーワード メモ！



明石川と生きる季節来遊の生き物たち

季節来遊とは 生まれた地点とは違う海域にたどりつき、季節の変化によって死んでしまう生き物のことです。海水温の高い季節に東南アジアや沖縄などで生まれた熱帯性の魚の生き物たちは黒潮や海流に乗って日本沿岸まで来ますが、冬になり低水温になると動きが鈍くなり他の生き物に食べられたり、餌を食べられなくなって死んでしまいます。以前は「死滅回遊」と呼ばれていましたが、死滅という言葉の印象が悪く、今は「季節来遊」と呼ばれ、無効分散とも言われています。しかし死滅しているのは事実なので、私たちは「死滅回遊の方が良い」という意見です。

季節来遊の生き物に関する玉-アークアラム共著の兵庫陸水生物・南紀生物

兵庫陸水生物, No.73-55-56 (2022) 南紀生物, 65(1): 21-22, 2023 兵庫陸水生物, No.73(2022) No.74(2024) 兵庫陸水生物, No.74-55-56 (2024)

兵庫陸水生物 (No.73) 55-56 (2022)

玉-アークアラム共著の「季節来遊の生き物」に関する論文の紹介と、その中で取り上げられた生き物の写真や図解が掲載されています。

南紀生物 (65(1): 21-22, 2023)

玉-アークアラム共著の「季節来遊の生き物」に関する論文の紹介と、その中で取り上げられた生き物の写真や図解が掲載されています。

兵庫陸水生物 (No.73) 2022 No.74 (2024)

玉-アークアラム共著の「季節来遊の生き物」に関する論文の紹介と、その中で取り上げられた生き物の写真や図解が掲載されています。

兵庫陸水生物 (No.74) 55-56 (2024)

玉-アークアラム共著の「季節来遊の生き物」に関する論文の紹介と、その中で取り上げられた生き物の写真や図解が掲載されています。

季節来遊の生き物の調査場所

明石川下流へ河口は、季節来遊の生き物の定着初期だと感じています。元々明石川に生息している生き物によって持ち込まれた外来生物は脅威ですが、人間の生活の中で地球温暖化や海水温上昇により、季節来遊の生き物たちが定着し同じように脅威になるはず。生態系に与える漁業も心配で、無効分散が有効分散になるかも知れません。これからは明石川下流へ河口に季節来遊の生き物も来る季節も環境の変化を知るために調査を続けていきます。

イセエビ

学名: *Homarus japonicus*

特徴: 日本固有種、大型の甲殻類。調査で増加傾向が確認されている。

テングヨウジ

学名: *Platypharodon platypharodon*

特徴: 外来種、小型の魚。調査で定着が確認されている。

クロホシマンジュウイ

学名: *Squalius japonicus*

特徴: 外来種、小型の魚。調査で定着が確認されている。

シロホシマンジュウイ

学名: *Squalius japonicus*

特徴: 外来種、小型の魚。調査で定着が確認されている。

このような状況から、今の明石川下流へ河口は、季節来遊の生き物の定着初期だと感じています。元々明石川に生息している生き物によって持ち込まれた外来生物は脅威ですが、人間の生活の中で地球温暖化や海水温上昇により、季節来遊の生き物たちが定着し同じように脅威になるはず。生態系に与える漁業も心配で、無効分散が有効分散になるかも知れません。これからは明石川下流へ河口に季節来遊の生き物も来る季節も環境の変化を知るために調査を続けていきます。

B-3 米川よろず会議

活動のキーワード

- ① 中心市街地を流れる米川 ② バーチャルかわまちづくり ③ アイデアを反映するバーチャル空間

発表内容

私の活動のテーマは『川を身近に感じてもらい、理想の将来像をみんなで創る』です。滋賀県長浜市の中心市街地を流れる米川について、昔のようにみんなが川に入って遊べるような環境、そして多くの人で賑わう河川空間を作りたいという想いがあります。そこで、私は VR 技術の特性に着目し、世界中のどこからでもバーチャルな空間上で人々が集まって議論をしたり、修景を実際に試行したりできる場を作成しています。その結果、理想の将来像の作成や、より良い未来のためのアイデアが出て、アイデアを反映することが出来ます。VR システムの開発を通じて、川とまちの共生する社会の形成につながり、全国的にかわまちづくりが進んでいくきっかけになると私は信じています。

活動中の川や水辺の名称

一級河川米川(淀川水系) 滋賀県長浜市

活動内容

米川に関する情報の集約や米川のある長浜の将来イメージの共有、研修会の開催などを主に行っています。

よいとこ探しキーワード メモ！



『川を身近に感じてもらい、理想の将来像をみんなで創る』

米川よろず会議 水谷知花



1. 背景・論点

河川空間 **×** まち空間
かわまちづくり



滋賀県長浜市の
中心市街地を
流れる米川

「川辺の空間」の
存在

市民と川の関わり
が必要不可欠

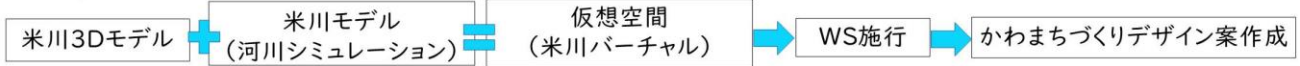
2. 研究の目的・意義

- ▶ VRシステムの有効的な活用方法を提案
- ▶ バーチャル空間上で人々の交流する場を作成



川の**関係人口**増加
川とまちの共生する社会形成

3. 研究方法



4. 進捗状況

米川3Dモデル

- ・スキャナ機能LiDARセンサー使用
- ・Polycamアプリを使用しカラースキャン3Dを作成

LiDARスキャナ機能を持つデバイスがあればいつでも誰でも撮影可能
丁寧に撮影を行えば細かな部分まで再現できる



2024年9月29日
iPadProで撮影

米川モデル

- ・実際に測定して作成した縦横断面図を基に流量や流速を計算
- ・iRICのNays2DHを使用



米川バーチャル

- ・かわまちづくりのアイデアを反映し、川と周辺地域を自由に設計可能
- ・ゲームエンジンUnreal Engine 5を使用

様々な視点から楽しむことが出来る
VRゴーグルに投影すれば
実際に米川にいるかのような体験ができる



曳山博物館広場

いけす

川から見る曳山博物館

再現 実際の米川の様子
(2024年8月4日撮影)

米川バーチャルに
人や椅子を反映させた様子



5. 今後の予定

- ・川の流れにiRICの結果を反映することを検討
- ・実際にVRゴーグルを用いたワークショップ開催
- ・空間デザイン案作成



米川よろず会議



所属

長浜地域づくり連合会
長浜まちづくり株式会社
滋賀県立大学環境科学部
長浜バイオ大学未来生物研究所
合同会社andstep
NPO法人近江淡水生物研所
ほか

活動内容

米川に関連する情報の集約
米川のある長浜の将来イメージの共有
研修会の開催
かわまちづくりを進める取り組み

B-4 日野川流域まもり隊

活動のキーワード

- ① ポイ捨てごみをなくす ② 日野川周辺 ③ 地域連携・交流促進

発表内容

気候変動による昨今の水害は全国に大きな爪痕を残しています。天井川である日野川流域に住む私たちにとって水害はとても深刻な問題であり、いつ氾濫が起きるかわからないという危機感を持ち、水害に対する備えは今まで以上に考え行動していかなければなりません。

私たちは令和元年9月から日野川沿いのごみ拾いをはじめ5年目になります。去年は川づくりフォーラムに参加し、ごみ拾いも流域治水の取組に繋がるという評価を得て、大きな励みになりました。それからこの一年で新しい取組に繋がったことを発表します。

活動中の川や水辺の名称

日野川 近江八幡市篠原町周辺桐原新橋付近

活動内容

ごみ拾いを通して日野川とその周辺の状況を監視

よいところ探しキーワード メモ！



日野川流域まもり隊

ふるさと農道のポイ捨てが気になり1人で始めたごみ拾い。

現在は14人に！！

昨年度

「ひとりゴミ拾いから地域をつくるで賞」を受賞！

自分たちのごみ拾いが流域治水に繋がるという評価は、活動メンバーの大きな喜びになりました。

新しい取り組みをスタートしています



今年4月に市の水と緑のネットワーク（環境保全活動団体）への加入のお誘いを受けました。新しい活動団体との交流で、みんなで共通の取り組みができるよう話しています。その1つが、ポイ捨てのないきれいなまちを目指す取り組みです。交流の輪がさらに広がり、楽しみながらポイ捨てをしない・させない取り組みをしています。

C-1 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト

活動のキーワード

- ① 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト
- ② 小さな自然再生
- ③ 行政を動かす市民活動

発表内容

川の清掃活動などをベースとした市民活動に行政が加わって「つながり再生プロジェクト」としてスタートした活動は、さらに他の行政、専門家、企業も参加して「家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト」になりました。

目標は、かつて多数のビワマスが遡上していた頃の環境を取り戻すことで、その手法は、小さな自然再生と呼ばれるものです。手作りの仮設魚道設置や人力による産卵床の造成などを失敗を繰り返しながら続け、仮設魚道をビワマスが登るようになりました。

この活動成果が大きく行政を動かし、令和6年3月にコンクリート製の本設魚道が設置されるに至りました。その結果、次々とビワマスが魚道を遡上する光景が見られるようになり、目標達成に大きく近づいています。

活動中の川や水辺の名称

一級河川中ノ池川 野洲市富波甲、富波乙ほか 野洲市総合体育館付近

活動内容

河川的环境保全活動

よいとこ探しキーワード メモ！





家棟川・童子川・中ノ池川に ビワマスを戻すプロジェクト



秋期に琵琶湖から遡上する**ビワマス**を家棟川のシンボルとし、**ビワマスが遡上、産卵、繁殖できる環境を整える**ことなどを通じて、家棟川およびその支流河川の自然環境を再生し、ひいては野洲市のまちづくりや活性化につなげていきます。平成27年8月に結成されました。

場所

野洲市域を流れる家棟川の上流～下流で活動を行っています。これまで23種類の在来魚が確認されていて、これは県内河川屈指です。



メンバー

市民、企業、専門家、行政、学生等が協働し、それぞれにしかできない役割を果たしながら検討を進めています。地元などの協力を得ながら活動しており、さらに仲間を増やしながら活動を展開していきたいと考えています。

市民

- 滋賀県自治会農地水循環保全委員
- 中ノ池・童子川生態調査委員
- 希見自治会関係者
- 飯塚町・あづくり推進協議会
- 童子川・家棟川河川愛護会
- 野洲市黒川づくり委員会
- NPO家棟川流域観光館

企業等

- TOTO株式会社
- 滋賀県立大学（学生）

行政

- 野洲市環境課
- 滋賀県琵琶湖保全再生課
- 滋賀県農林土木事務所

専門家

- 滋賀県水産課
- 滋賀県水産試験場
- 琵琶湖環境科学研究所センター

（外部協力者）

- 徳島大学 水産教育
- 兵庫県立大学 水産学
- 滋賀県立大学 海洋教育

活動

ビワマスが遡上、産卵、繁殖できる環境の再生に向けて、これまで主に3つの活動を実施してきました。ビワマスの稚魚が初めて発見されたり、設置した魚道を遡上するなど、すでに多くの成果が得られています。

活動①：産卵床の造成

河床に礫を入れ、ビワマスが産卵できる環境を整えました。すると、遡上してきたビワマスが産卵床を使う姿が何度も目撃され、春にはその周辺で多くの稚魚を確認しました！



ビワマスが産卵行動！



活動開始以降、毎年稚魚を発見！

活動②：魚道の設置

家棟川の支流、中ノ池川にある高低差約3mの落差工がビワマスの遡上を阻害していることから、仮設魚道の設置を行い、ビワマスの遡上や上流での産卵を確認してきました。令和6年3月には、コンクリート製の本設魚道が完成し、ビワマスの遡上を確認しています！



毎年設置、撤去を行っていた仮設魚道

本設魚道完成！

活動③：調査と監視

ビワマスの遡上状況を確認するとともに、違法な採捕の監視を行いました。降雨とともに遡上するビワマスの特性が明らかになりました。

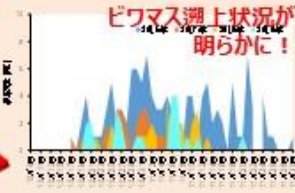
毎日の遡上調査・監視



調査票の記録



ビワマス遡上状況が明らかに！



問い合わせ先：
野洲市役所 環境経済部 環境課 (〒520-2395 滋賀県野洲市小篠原2100番地1)
TEL 077-587-6003 FAX 077-587-3834 E-mail kankyoku@city.yasu.lg.jp

C-2 小さな自然再生ネットワーク

活動のキーワード

- ① 川あるき ② 蛍の生息域を拡大 ③ 水生生物の環境保護

発表内容

朝鮮通信使が見た菟村の蛍

至菟村日暮燈明見林間螢火無数作塊作隊其光如炬索夫從五六箇來示盃聞此
処螢火名於國中伝燈

朝鮮通信使が見たホタルを再現できるように、川をあるいて、蛍の生息域を拡大し、水生生物が生存しやすい環境を作っています。



活動中の川や水辺の名称

中の井川 栗東市菟町 JR 栗東駅付近

活動内容

川をあるき、川を観察し、ホタルの生息域を拡大しています。

よいとこ探しキーワード メモ！



ホタルが生息している場所と 生息していない場所があるのはなぜ？



知っている人は
毎年ホタル見を
楽しんでいた



歴史を紐解くと、ホタルが有名なところだった！

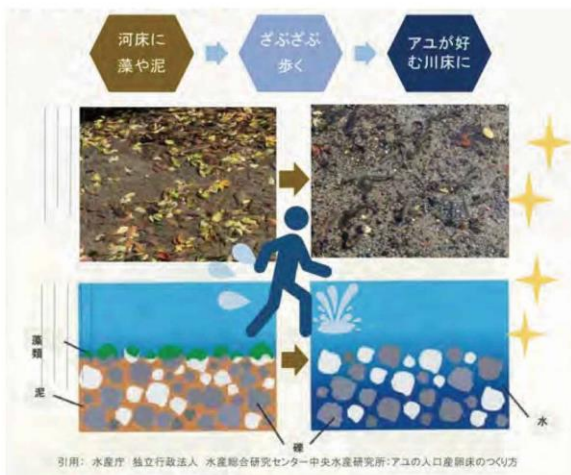
朝鮮通信使が見た麓村のホタル

1748年朝鮮通信使の子弟軍官として

来日した洪景海（ほんぎょへん）さんが書いた随様日録より

**ホタルの生息域を広げるため、
川づくりフォーラムから得た
知見を活用し、仲間と活動してみた**

1. 川ぞいの珪藻が流れ、川ぞいに生息する水生生物に酸素が届く
2. 川ぞいが柔らかくなり、魚が産卵しやすくなる
＜引用元：「米川を歩く会」のポスター＞
3. カワニナが生息するためには流速が必要？では、バープを作っちゃえ！



ホタルの幼虫と
カワニナ



小さな自然再生ネットワーク

C-3 京都産業大学現代社会学部鈴木ゼミナール

活動のキーワード

- ① 鴨川デルタ ② 水の聖地 ③ 親水空間

発表内容

私たちは、アンケート調査及び調査結果のデータ解析を通して、常に多くの人々が集う親水空間である鴨川デルタの魅力を実視化する試みを行った。また、鴨川デルタを”水の聖地”として選定し、魅力の周知を図ることとしている。その一環として、(株)京阪ホールディングスと協働して、11月17日(日)にガイドウォークを行う。これらの取り組みを通して得られたデータとそれに基づく今後の鴨川デルタの在り方や展望を示す。

活動中の川や水辺の名称

一級河川鴨川・鴨川デルタ

活動内容

アンケート調査、データ解析、鴨川デルタ水の聖地を巡るガイドウォーク開催

よいところ探しキーワード メモ！



鴨川デルタ

～人が集まる親水空間とは～

キーワード

・鴨川デルタ ・水の聖地 ・親水空間

京都産業大学現代社会学部鈴木ゼミナール5期生

鴨川デルタとは

鴨川デルタは、京都市内を流れる賀茂川と高野川の合流地点一帯のことを指します。河川内を横断する飛び石が名物となっており、常に多くの人で賑わいます。アニメやドラマの聖地でもあり、多くの人を惹きつける不思議な魅力がある場所です。



調査目的

当調査は、常に多くの人で賑わう鴨川デルタの**魅力を具体化し、データとして明示すること**を目的とする。

本調査の結果は、都市部の親水空間・交流拠点の整備等において有用であると考えられる。

調査方法

当調査は、アンケートを用いて、鴨川デルタを訪れる人々に対して、回答者の属性（性別、年齢、職業、居住地）と、①訪れた目的、②滞在時間、③訪れる頻度、④訪れるようになった時期、⑤誰と訪れることが多いか、⑥魅力を感じる場所、⑦今後求めるもの、⑧どこから来てどこへ行くのかの8項目を回答してもらった。

調査日：2024/6/5、7/20、7/29
有効回答数：122件

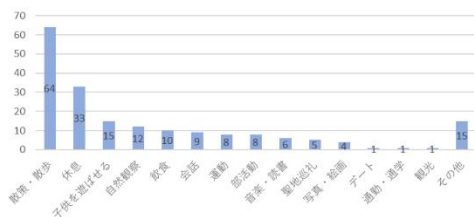
京阪ぶらり街道めぐり ガイドウォーク

当調査の結果も踏まえ、11/17（日）に（株）京阪ホールディングス主催「京阪ぶらり街道めぐり」の企画でガイドウォークイベントを実施する。

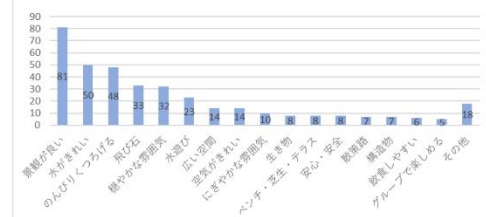
ガイドウォークでは、調査結果を含む概要説明の他、飛び石や橋などの構造物、下鴨神社や出町枳形商店街など周辺施設の案内も行う。

調査結果

訪れた目的（複数回答）



何に魅力を感じるか（複数回答）



調査の結果、「訪れた目的」では、1.散策・散歩、2.休息、3.子供を遊ばせるの割合が高くなった。夏の日中に調査を行ったため、川遊びで利用する家族連れが多く見られた。一方で、観光目的の利用は少なく、気軽に立ち寄ることができる場としての役割が強いことがわかった。

「何に魅力を感じるか」では、1.景観が良い、2.水がきれい、3.のんびりくつろげるの割合が高くなった。また、水がきれい、飛び石、水遊びと、親水空間ならではの項目が多く票を集めた。穏やかな雰囲気と賑やかな雰囲気が共存している点に、鴨川デルタの自由さを見出すことができる。

結論/今後に向けて

本調査では、「今後の鴨川デルタに求めるもの」も調査したが、そのほとんどが「なし」であった。調査を進める中で、「今のまま変わってほしくない」という声も多く聞かれ、設備の利便さを求めるよりも、自由に使い方が限定されない空間を求める人に利用されていることが明らかになった。

調査結果からは、「**安心して利用できる自然豊かな空間**」と「**使い方が限定されない自由な空間**」という2つの要素を見出すことができる。2つの要素に着目し、両輪で整備を進めることが自然に人の集まる空間の創出に繋がると考える。

これまでの水の聖地



C-4 Tabiwa Next

活動のキーワード

- ① ビワイチ ② サステナブル・ツーリズム ③ ウェルビーイング

発表内容

私たちは、滋賀県の観光資源「ビワイチ」を、心身の健康に寄与する「ウェルビーイングな観光」としてリデザインする方法を模索する団体です。今年度はトライアスロン大会や国際会議での議論を通して、持続可能な観光のあり方を探求しました。その結果、有名なサイクリングルート「しまなみ海道」と比べ、ビワイチは、壮かさやクリーンなイメージが十分に伝わっていない現状が明らかになりました。この課題に向き合い、滋賀の魅力を再発見し、再構築することで、サイクリストや観光客の満足度向上を図る方策を検討しています。本イベントを通じて皆さんと意見を交わし、滋賀の自然と共生する新たな観光の形を共に創造していきたいと考えています。

活動中の川や水辺の名称

びわ湖、瀬田川

活動内容

若い県民や県外に向けたビワイチの推進、情報収集と発信、研究活動

よいとこ探しキーワード メモ！



「ピワイチ」をモデルとした新しい観光のあり方を考える

ウェルビーイング × ピワイチ by Tabiwa Next

本取組は「ピワイチ」を初めとする滋賀の観光資源について、若い県民らがウェルビーイングの視点から、新しい価値の創造を行うものです。中でも、これまで軽視されがちであった「南湖でのピワイチ」のポテンシャルに目をつけ、大学での研究成果を社会実装する手法を、県民とともに模索しています。達成感や爽快感だけでなく、滋賀県の自然が持つ「美しさ・楽しさ」から、感動や健康増進に繋がる取組の創出を目指します。



私たちについて

「身近な河川周辺の環境、その意外性や発見から、地元をまた好きになって、健康に過ごす」
そのような社会の実現に向けて活動しています。主要メンバーの戸簾はデータサイエンス、窪園は行政政策、佐藤はウェルビーイング、それぞれの専門領域を活かした活動を行っています。

【団体メンバー】 活動に係わる主要な学生メンバー



【協力企業・大学】

- ・一般社団法人インパクトラボ
 - ・株式会社 COMARS
 - ・立命館大学 (山中司 教授)
 - ・滋賀大学 (義久智樹 教授)
- (滋賀大学 産学公連携推進機構)

活動略歴



活動内容について

TOPIC 01 調査研究



私たちはウェルビーイングなピワイチとなるような、地域の既存資産の新たな価値を生み出す調査研究を実施しています。本年度は「群馬県・尾瀬国立公園」「愛媛・瀬戸内しまなみ海道」にて調査を行いました。

そこで、製品に新しい意味(製品の体験から得られる価値など)を与えることによって生じるイノベーションの重要さや、地域ごとにおけるピワイチの本気度の違いの是正や、強権的な事業実施体制の重要さが明らかとなってきました。

瀬田川での発見



瀬田川の河川敷なんて、足踏に20年以上住んでも行ったことがなかった！
もっと地元を知りたい！

新しい価値の在り方



南湖は一周回ります、中途半端と思っていたのですが、観光の楽しさで、それ以上の価値があった！

上級者お楽しみ



慣れてくると忘れがちな観光や自然を思い出すことができました。

気軽にできるピワイチ



走りきれなかったらどうしようと思っていましたが、保険の安心感もあり、50kmを走りされました！

TOPIC 02 提案活動・発表



私たちが調査研究を行い、判明した成果について、論文や報告としてまとめ、提案・発表を行っています。

具体的には、スポーツ・観光・情報学といった学会での発表、論文掲載、成果報告会での提言など、構成員が学生だからこそアプローチできる所を意識して、提案や露出を心がけております。



自転車の安全利用に関する最大の国際学会にて、観光情報学の研究成果をポスター発表。各国の研究者から、評価を受ける。

▲今治市長からもメールを頂きました！

TOPIC 03 成果報告・広報



私たちの活動内容については、随時、協力企業の一般社団法人インパクトラボや、滋賀大学 産学公連携推進機構のWebページに掲載しております。



noteで活動や調査、研究の様子を詳しく掲載しています！上記のQRコードからぜひご覧ください。▲